



特集 武蔵野会の社会貢献事業



「となりのトトロのぬいぐるみ展」
那須 テディベア・ミュージアム
(武蔵野児童学園)

トック

プロダクティブ・エイジング

法人創立50周年記念セミナー特別講演の講師のお願いに、内閣府の山崎史郎政策統括官をお訪ねしたときのことで。執務室に世界的な老年学の権威、故ロバート・バトラ博士の写真が飾っており、私も19年前にニューヨークでお会いして同博士に敬愛の念を抱いていただけに、とてもうれしくなりました。

精神科医であるバトラ博士は、認知症の治療法としての「回想法」を創始するとともに、「エイジズム」という言葉により高齢者差別の撤廃を早くから訴えてきました。また、「プロダクティブ・エイジング」の理念を提唱し、「高齢者を社会の弱者として差別や偏見の対象とするのではなく、すべての人が老いてこそますます社会にとって必要な存在であり続けること」を主張してきたことで有名です。

プロダクティブ・エイジングでは、高齢者の経験や知恵等が社会や家庭において活かされることが求められます。元気な高齢者は何歳までも働いて税金等も負担する。働かずとも、趣味やボランティアの活動で元気に過ごすことも医療費の低減等につながります。また、寝たきりであっても、懸命に生きることでも人間の生命力や尊厳を示すことができます。

プロダクティブ・エイジングは、このように、生産的や創造的という訳語にとらわれないことなく、高齢者自身や社会が、高齢であることを前向きにとらえ、かつ、社会がそのような高齢者を受け入れる場をつくること、解釈されています。

少子高齢化が急速に進み、年金や医療の財政負担等を巡る世代間対立等も言われる日本でこそ追求すべきテーマであり、障害の有無や性別、年代等の違いを超えて、すべての人が共に生きる社会の創造につながる素晴らしい理念であると考えています。

社会福祉法人武蔵野会 理事長 上野 純宏

特集 社会福祉法人武蔵野会 社会貢献事業

武蔵野会の中長期計画には、「サービスの質の向上」「地域社会への貢献」「財政基盤の安定化」「人材育成」「法人の組織強化」の5つの柱があり、それぞれの課題を明確にして、法人の3か年計画にしています。各施設、各地区は、それをそれぞれの計画に落とし込み、実践に結び付けてきました。現在、第3期3か年計画の2年目にあたりますが、その5本柱の1つ「地

域社会への貢献」の取組について紹介します。その中でも施設や地区が取り組んでいる地域プロジェクトをいくつか紹介します。まず、都道府県に地域生活定着支援センターを置くという国の施策は、山本讓司氏の影響を受けて、長崎の社会福祉法人南高愛隣会が行った厚生労働科学研究「罪を犯した障がい者の地域生活支援に関する研究」の成果であり、長崎県から始まりましたが、東京都は全国でも遅い段階での設置となりました。

都の地域生活定着支援センターへの応募でした。都道府県に地域生活定着支援センターを置くという国の施策は、山本讓司氏の影響を受けて、長崎の社会福祉法人南高愛隣会が行った厚生労働科学研究「罪を犯した障がい者の地域生活支援に関する研究」の成果であり、長崎県から始まりましたが、東京都は全国でも遅い段階での設置となりました。

累犯障害者の地域生活定着支援

少年院や刑務所等の矯正施設には、2割程度の障害者と1割程度の認知症高齢者が、入っていて、しかも、出所と入所を繰り返しているという事実を、武蔵野会として認知したのは、武蔵野会セミナーでの山本讓司氏の講演からです。職員個々には、報道などを通して知っていた人も、少なくなかったとは思いますが、武蔵野会として何ができるのかという課題としてとらえたのは、そのセミナーがきっかけとなりました。武蔵野会の最初の行動は、東京

都の地域生活定着支援センターへの応募でした。都道府県に地域生活定着支援センターを置くという国の施策は、山本讓司氏の影響を受けて、長崎の社会福祉法人南高愛隣会が行った厚生労働科学研究「罪を犯した障がい者の地域生活支援に関する研究」の成果であり、長崎県から始まりましたが、東京都は全国でも遅い段階での設置となりました。

その後、累犯障害者の地域生活支援に関する研修会に積極的に参加したり、長崎の南高愛隣会を訪問し、累犯障害者への地域での生活支援を実際に見て、現状の認識を深めました。そして今年度、武蔵野会が累犯障害者の地域生活定着支援への取り組みを検討していることを、東京都の地域生活定着支援センターの所長が知り、武蔵野会の本部を訪ねて来られ、具体的な活

動へと繋がりました。

現在、入所施設では、すでに矯正施設を出た方が生活しています。今年度、法人として初めて、某刑務所を満期出所した方が、武蔵野会が借りたアパートに住まい、当法人の近隣の福祉施設に通っています。また、今後、当法人のグループホームを帰住地として、満期出所した方の支援を予定しています。その中で、多くの課題も見つかりました。

保護観察官が発起人で、地域住民、社会福祉協議会、区市の障害福祉課、大学教授、更生保護施設職員、福祉施設職員などで構成する「触法障害者の地域生活研究会」に所属し、累犯障害者の地域生活定着支援の推進に貢献したいと考えています。

利用者の方々が元気づきました。利用者の方々が元気なうちに自分のためにお金や財産を有効に使えるように、補助人、保佐人、後見人を立てられればいいのですが、単身者やご家族が高齢の場合は後見申し立てが困難です。また、高齢の親族の方が後見人となっても、病気などで後見実務ができなくなることも予想されます。

また、支援する法人として、矯正施設入所中に、福祉利用希望者のことを知り、出所後の生活準備や支援方法の検討など、受け入れのための委員会（心理学科の大学教授、弁護士、家裁の調停委員、法人運営委員を予定）を設置する予定です。

また、支援する法人として、矯正施設入所中に、福祉利用希望者のことを知り、出所後の生活準備や支援方法の検討など、受け入れのための委員会（心理学科の大学教授、弁護士、家裁の調停委員、法人運営委員を予定）を設置する予定です。

そんな中、日本福祉大学の提携法人サミットで法人後見を勧められました。しかし、利用者を直接支援している武蔵野会は利益相反となり、できないことがわかり、法人成年後見を行う別の法人の創立を支援し、バックアップすることで当法人の利用者だけでなく、広く地域の障害者や高齢者の成年後見の推進に役に立てると考えました。

武蔵野会としては、累犯障害者の地域生活定着支援は、まだまだ、緒に就いたばかりですが、矯正施設を出所した障害者などの生活困窮者の支援について、法人としてできることを、職員全体で取り組んでいきたいと考えています。

武蔵野会としては、累犯障害者の地域生活定着支援は、まだまだ、緒に就いたばかりですが、矯正施設を出所した障害者などの生活困窮者の支援について、法人としてできることを、職員全体で取り組んでいきたいと考えています。

立ち上げやすい一般社団法人とし、目的を理解していただいた方に、発起人や理事、監事になっていただき、「みんなの力」が平成22年12月に立ち上がりました。「みんなの力」の実務は基本的には会員になって、自分の時間を使って行いますが、武蔵野会としてバックアップを推進しているのが、各地区に担当者置き、地区での身上監護

成年後見事業…法人後見の推進

武蔵野会は、それらの課題に対して、東京の地域生活定着支援センターとの連携を強化しながら、

法人創立50年を迎えた武蔵野会には、利用者の方々が当法人の施設で、財産を残しながら生を全うさ

れる方が多くなってきました。利用者の方々が元気なうちに自分のためにお金や財産を有効に使えるように、補助人、保佐人、後見人を立てられればいいのですが、単身者やご家族が高齢の場合は後見申し立てが困難です。また、高齢の親族の方が後見人となっても、病気などで後見実務ができなくなることも予想されます。

むさしの武蔵野 歩み続ける「道」にあるもの

オリンピック金メダリストの上村春樹さんは、相次ぐ不祥事に揺れた全日本柔道連盟の会長職を退きました。相撲界の不祥事も同様ですがグローバル化が加速するなか日本古来の伝統文化としての「道」の意味を初心に戻って考えてみる必要を感じています。

柔道、剣道、華道、書道など「道」で思い込めるのは、新渡戸稲造の「武士道」で説かれる日本人の美しいとされる生き方です。武士の倫理は「卑劣な行為を忌む義」「礼儀作法」「真実としての誠」などからなるとされています。「道」を「美や真実の根源」と解釈すると、それぞれの稽古を通じて人生とは何かどう生きれば良いのかという真理に迫る姿勢で人間として成長しようとする人の生き方すなわち人生そのものでもあるといえます。

武蔵野会は社会福祉の実践組織として歩み続けて50年。福祉制度の改革により、NPOや企業などの参入が可能となったことで社会福祉の普遍化が進んでいる。昨今、社会福祉法人の存在意義が問われ始めています。制度が未熟な時代は、自分の存在

の外のニーズに目を向け、組織としてそこにいる人たちがやるべきことを開発してきたように思います。多様化するニーズは、制度の枠内の事業として徐々に整備されてきましたが、社会環境の変化は新たなニーズを作り出していくものです。

社会福祉法人は、常に外のニーズに目を向け、制度の不備を行政や政治家に何とかしてもらおうとするばかりではなく、どのような時代にあっても公益性・公益性を追求し、社会に貢献する組織であり続けなければならぬと思います。そこにいる人間としても初心に戻って自分自身を問い直してみる必要があります。どんなに恥や失敗の多い自分の人生であったとしても、課題を通して人として成長しようとするれば自分を再発見する道は見えてくるはずですよ。

終わりのない道、終わりを求めない道、人間性を追求する道を歩み続けることが「仕事道」としての誠の生き方になるのでしょうか。

ピーター・ドラッカーはいいです。「自己開発は哲学でも願望でもない。それは人としての成長である」「明日何をしますか。何をやめますか」

練馬福祉園 施設長 中島通子

チーム（社会福祉士や福祉施設職員など3人の会員でチームを組む）の結成や被後見人の決定などに協力しています。

現在は、「みんなの力」では10人の後見実務を行っていて、それぞれの被後見人が生活する大島地区、練馬地区、八王子地区で身上監護チームが結成されています。主に入所施設の利用者ですが、定期的に施設を訪問し、被後見人の生活を把握し、施設や職員への要望を被後見人に代わって行ったり、支援計画の作成に参加し、本人本位の計画になっているかを確認して、記録を残しています。財産管理は、「みんなの力」に勤務する、司法書士の方が行っています。「みんなの力」は設立から間がないため後見



八王子の身上監護チーム 関係者との話し合い

監督人として弁護士3人が担当してきましたが、これまでの実績で今年度から外れる予定です。

また、「みんなの力」では、東京都福祉サービス第三者評価事業や講師派遣などの研修事業も行い、地域福祉や福祉サービスの向上にも携わっています。「みんなの力」の活動は、武蔵野会が直接行う事業ではありませんが、法人全体としてバックアップしていくことが社会貢献につながると考えています。

社会福祉施設における長期療養者の受け入れ課題と対策

武蔵野会では社会貢献事業の一環として、広くは社会改善を目的とした調査研究とそれに基づく実践を経営課題の一つに掲げています。その中で、平成21年度より厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業の「HIV感染症及びその合併症の課題を克服する研究」(研究代表者白阪琢磨)の分担研究として「社会福祉施設における長期療養者の受け入れ課題と対策」を研究してきました。

は東京のアルカディア市ヶ谷で同様の研修を行う予定となっています。エイズ感染症は地域全体で考えていく時代になりました。今後とも武蔵野会ではこの問題を開拓的に取り組み、未だに様々な社会的障壁に阻まれていた人たちの支援を考える上での一つのヒントを社会に示す「きらりと光る」法人でありたいと思います。

※冊子は左記アドレスよりダウンロードできます。

<http://www.haart-support.jp/guideline.htm>
<http://www.haart-support.jp/download.htm>

〒540-0006
大阪市中央区法円坂2-1-14
独立行政法人国立病院機構大阪医療センター
HIV/AIDS先端医療開発センター
担当：井内・永澤
TEL 06-6942-1331
FAX 06-6946-3652

被災地支援

武蔵野会では、東日本大震災後の平成23年4月から、毎月1回、被災地へ20人程度のボランティアを派遣しています。1年目は宮城

感染症の治療は飛躍的に進歩を遂げ、HIV感染症は「不治の特別な病」から「コントロール可能な一般的な病」となりました。その一方で、わが国でも毎年、1000人を超える新規HIV感染者/エイズ患者が報告され、累積の報告者数は2万人を超えました。慢性疾患となった現在、感染者は服薬しながら通常の日常生活を送り、加齢に伴い、在宅看護、さらに福祉施設や医療施設への入院・入所が必要な方が少しずつ増えている状況です。HIV陽性者は、治療によって感染性がほとんど無い状態を維持でき、日常的ケアで特別の対策は要りませんし、HIV陽性であるからといって特別な感染対策は必要ありません。ですから、地域の福祉施設に高齢化や疾病の後遺症で要介護状態になった地域の受け皿として福祉施設への役割期待が年々高まっています。

しかし、残念ながらHIV感染症が「コントロール可能な一般的な病気」になった状況にも関わらず、福祉施設での受け入れは進んでいません。この背景にはエイズに関する基本的知識や施設側の受け入れ体制、地域の連携体制の不足が指摘され

り立ち入り許可されたばかりの施設の片づけや整理を行いました。1年以上、立ち入りができなかった地域は、震災直後のままの状態でした。宿泊する農家民宿は、元市役所で避難所設営などを担当していた方が、地元の復興活動の一環として行なわれていたため、その後、協力関係を深めながら現在まで利用させていただいています。現在は5か所の福祉施設に職員が分散し、それぞれの希望に合わせて活動を行っています。各施設へのコーディネートは地元の社会福祉協議会に行っていたいています。

上記のような支援活動が継続できるのは、武蔵野会の職員が、被災地支援を目的とした募金活動を継続して行っているため、ボランティアに参加する職員だけでなく、参加に協力する職員や平素から協力をいただいている関係者の方々のおかげだと思っています。今後も息の長い被災地支援を継続していきます。

武蔵野会セミナー

地域向けのセミナーは、各地区、

ていますが、その前にもくもくエイズ感染症を怖がり排除しようとする差別・偏見の意識構造が見え隠れしているように思えます。

平成8年にらい予防法が廃止されましたが、治療しているハンセン病患者を長らく地域から隔離する法が我が国では存続されました。同様にエイズの問題も、ただ「怖いもの」「異質なもの」として社会から排斥するようなことのないよう武蔵野会では人権の問題としても捉えていく必要があると考えています。

武蔵野会では、平成21年度から様々な調査研究を行い、研究報告をしてきましたが、その中で特に大きな成果は、平成23年度の「HIV/エイズの正しい知識」を知ることからはじめよう」という福祉施設版の受入れマニュアル(48頁)の作成です。既に全国の福祉施設等に3万部以上が配布されています。今でも同マニュアルの問い合わせは引きも切りません。

また、全国各地で県域単位で「HIV/エイズ啓発研修」を実施し、好評を博しています。今年度は広島、群馬、愛知、新潟、長野の各県で研修を実施し、12月9日に各施設で継続して行ってきましたが、「武蔵野会セミナー」として、人権をテーマにして毎年行うようになったのは、第2期3ヵ年計画の初年度(平成21年度)からです。武蔵野会のプロジェクトチームに位置づけ、練馬地区が担当となって、今日まで継続して行っています。

「武蔵野会セミナー」が人権をテーマに行っているのは、福祉従事者として常に意識するという意味だけではなく、人間が生きていく上で最も重要であり、福祉関係者も地域の方々も共通の課題として、継続的に発信していく意義は大きいと考えているからです。

平成21年度の1回目は、「刑務所内の現実から見えてくるわが国の福祉」、22年度は「障がい者権利条約と知的障がい者施設を考える」、23年度は「虐待はなぜ起こるのか」、24年度は「差別はなぜ起こるのか」、25年度は、50周年記念セミナーとして、これまでに、講師をしていた方々を招き、「共生社会と人権」と題し、開催しました。

来年以降も人権をテーマに、地域の方々と共に考えるようなセミナーを継続していきたいと考えています。

ニュース ラウンジ

きりぎり

10月開設 すぎな愛育園

すぎな愛育園がある八王子市は人口56万人以上、地域も広く近年は市内の南部に若い世帯が多く、療育相談件数も多くなっています。以前から入園希望があっても、待機していた多くの保護者からは「すぎなの分園がほしい」との声が上がっていました。

そんな中、昨年6月に八王子市からの要請があり、理事会の承認を得て進めてきた念願の児童発達支援事業「すぎな愛育園きらき」が10月に開設します。「公益財団法人東京都都市づくり公社」が所有している八王子南部地域の片倉町にある土地・建物を借用し、定員20名でスタートです。ログハウスの外観と園庭の樹木や芝生は、

そこだけが自然の中にある雰囲気、バス停留所が目前にあるとても環境の良い場所です。管理責任者を含め職員は6名編成です。今後は、「すぎな」と「きらき」の2つの園が切磋琢磨し、より支援の質の向上を目指します。



送迎バスを利用して通っています

支援実践報告の 優秀賞の発表

今回、24施設から25編の報告が寄せられ、先駆性、有用性、合理性、理念性、表現力の観点から鑑みて、秀でた6編を選考しました。全体的に、個々の職員の創意工

夫の努力によるだけでなく、多職種連携も含めた組織的な対応が確立され、外部の社会資源との連携、協働が一層追求されているような内容が多くなっています。

【最優秀賞】

「トータルリラクゼーション」の導入と実践
世田谷区立駒沢生活実習所

【優秀賞】

エピソード記述を通して「利用者理解」を考える
H子さんと支援員の関係の意味と変容のプロセス
八王子生活実習所

【優秀賞】

生活課題のある知的障害者の自立の支援
練馬区立光が丘障害者地域生活支援センター

【優秀賞】

Aさんの生活の質の向上を目指す
小平福祉園

【優秀賞】

本人理解を主眼とした支援
認知症を有するAさんの支援を通じて
第2大島恵の園

【優秀賞】

Aくんの食事支援
「家庭との連携と前例にとらわれない取り組み」
すぎな愛育園



八王子福祉作業所

11月9日(土)に恒例のお祭り「ふじもり祭」が行われます。昨年に引き続きボランティアの皆さんによる、お祭り盛り上げ隊が企画を練っています。昨年はそのおかげで多くの来場者で賑わいました。今年もご期待ください。

大泉町福祉園

今年度はランチバイキングを5回計画しています。これまでに洋食と中華を行い、10月には和食、12月にはクリスマスバイキング、そして最後の2月はB級グルメバイキングを計画しています。利用者の皆さんがとても楽しみにしている企画となっています。

駒沢生活実習所

7月、地域交流事業の「夏休み親子陶芸教室」を開催しました。自由研究にしようという張り切る小学生やお子さんより熱中しているお母さんもいて、とても充実した様子でした。どんな作品に焼き上がるか、とても楽しみです。

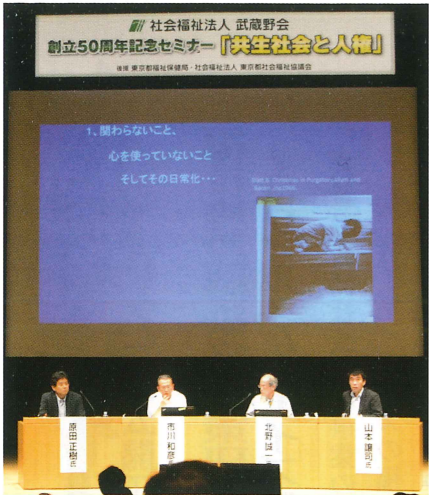
北町福祉作業所

エコキャップ運動は利用者自治会が活動しています。この夏、エコキャップの回収量が増加しています。これは連日の猛暑でペットボトルなどの消費が増えているためです。430個で10円のワクチン代になります。

法人設立50周年 記念セミナー開催

去る7月20日、大手町の日経ホールにおいて、法人設立50周年記念セミナーを開催いたしました。武蔵野会セミナーも5回目、今回のメインテーマは「共生社会と人権」です。各分野でご活躍の方々5名に、特別講演、シンポジウムをお願いしましたが皆様快くお引き受けくださり、50周年にふさわしいセミナーとなりました。

当日は、参加者は400名ほど、テーブルが使用できる客席はゆったりとしており、シンポジウムの質問票も数多くいただきました。また、アンケートでは、「シンポジウムでもっとそれぞれの話



共生社会を実現するための取り組みについて話していただいた

を聞きかかった」「共生」という言葉をはじめ意識した」などの気づきが多く、今回のテーマがこのセミナーで完結するものではなく法人理念の根幹に深く関わるテーマとして、種を播くことができただけかと思えます。そして参加者ひとり一人が自らの心の中に育て、行動し、さらにより広く種を播くということが、武蔵野会セミナーの意義であり、法人の使命だと感じました。

仮施設への 引越終了

小平福祉園

7月15日に建て替えの最初の取り組みとなる仮施設への引越が無事終了しました。建て替え中は同じ敷地内で生活することができないため、一時離れた場所に仮施設の施設を建て生活することになりました。仮用地は小平市の隣にある西東京市の都有地に決まり、西東京市の近隣住民の皆さんへは3回住民説明会を行いました。特に1回目の説明会では、地域の方々から終了の際拍手を頂き、緊張が安心へ変わった一瞬でした。



仮施設の正面・管理棟

仮設への引越しは7月13日、14日、15日の3日間で行い、利用者は最終日15日の午後に移って頂きました。この3日間、職員は送り出す小平と荷物を受け取る仮施設に別れ、運送会社のトラックで施設の間を何度も往復しました。法人職員にも応援して頂き、3日間で約60人の職員が汗を流し頑張ってくれました。

利用者の皆さんは環境が変わり戸惑いながらも現在はいよいよ落ち着かれています。また、職員もようやく新しい環境と勤務態勢に慣れ、利用者支援に取り組んでいます。仮設の生活は27年9月迄を予定しています。

世田谷福祉作業所

今年度から小田急線梅ヶ丘駅にて自主生産品を販売しています。帰宅途中の会社員、近隣の大学生、主婦の方に購入して頂いています。回を重ねるごとに「美味しかったよ」などの声を掛けて頂き、手応えを感じています。

希望の里

実りの時期を狙って、野生猿が20頭程の集団で栗林に姿を見せています。なかには春に生まれた多数の子猿が木のうでじゃれ合う姿も。栗林がよく見える作業室の窓には利用者の皆さんが集まり黒山の人だかり。農家には迷惑な猿達ですが、可愛らしい動作や仕草に魅せられてしまっています。

東堀切くすのき園

9月7・8日と20・21日の2回に分けて宿泊旅行を実施しました。今回は、マザー牧場と木更津、保田近辺で海鮮料理を満喫する企画でした。秋の房総をみんなで楽しんできました。

大島恵の園

猛烈に暑かった夏も過ぎ、この暑かった夏の期間に待望のエレベーターの工事が行われました。これにより、今まで2階に行くことが難しかった利用者の方も、日中活動や入浴の場面で簡単に行き来ができるようになり喜んでいきます。



福祉施設感染症対策研修 ノロウイルスからエイズまで

武蔵野会は社会貢献事業の一環として、HIV／エイズの福祉施設受け入れを促進するための研究を厚生労働科学研究補助金のエイズ対策事業の一環として行ってきました。

し、全国で啓発研修を行ってきたところですが、このたび、東京都でも左記の啓発研修を行いますので、ご参加ください。

日時 平成25年12月9日(月)

午後1時～4時30分

会場 アルカディア市ヶ谷

(千代田区九段北4・2・25)

JR市ヶ谷駅から徒歩3分

内容・エイズの基礎知識

・福祉施設従事者のための

基本的な感染症対策について

・社会福祉施設HIV陽性者

受け入れマニュアルについて

参加費 無料

お知らせコーナー

- 10月
- 6日 お茶亀まつり (白鳥福祉館)
 - 12日 法人採用試験 (希望の里)
 - 希望の里祭り (希望の里)
 - くすのき祭 (東堀切くすのき園)
 - 16日 施設長会議・研修
 - 18、19日 福島ボランティア
 - 20日 第30回ふれあい運動会(八王子地区施設)
 - 25日 法人採用職員・内定式
 - 26日 第9回ぼんぼん祭り(九品仏生活実習所)
 - 第19回すぎなセミナー (すぎな愛育園)
 - 秋桜祭り (さくら学園)
 - ふれあいまつり (大泉町福祉園)
 - 31日 被災時の避難所運営研修 (法人)
- 11月
- 9日 ふじもり祭 (八王子福祉作業所)
 - 10日 さぎょうしよ祭 (烏山福祉作業所)
 - 15日 施設公開 (大泉町福祉園)
 - 15、16日 福島ボランティア
- 12月
- 1日 ふれあいコンサート (八王子市心身障害者福祉センター)
 - 7日 障害者フェスティバル参加(練馬地区施設)
 - 13、14日 福島ボランティア
 - 18日 施設長会議・研修



シュトーレン

ドイツでは、クリスマスを祝う1ヶ月前からシュトーレンというドライフルーツやナッツを練り込んだお菓子を作り、毎日少しずつ食べてクリスマスを待つ習慣があります。

八王子福祉作業所でも、それになんで季節限定のシュトーレンを販売します。

予約制ですので、お早めにご注文ください。1ホール千円です。

ショーケース 自主生産品紹介 秋の新品

八王子福祉作業所

TEL(042)626・0631

北町福祉作業所

TEL(03)6556・0661

秋のハロウィンに向けてパウンドケーキ「パンプキンシナモン」(1ホール500円)と「かぼちやのちんすこう」(1袋100円)を販売開始しました。

7月にパテシエの指導を受け、レシピから細かな作成方法を見直し、より美味しいパウンドケーキ、クッキーをつくりました。

美味しく生まれ変わった商品是非一度、ご賞味ください。



パンプキンシナモン

武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する24施設と6つのグループホームの利用者のために、より良い環境や施設の充実・施設の円滑な運営などを、物心両面から支える組織として、武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により、会の拡大をはかり、法人の運営基盤の確立を応援していますので、ご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931

東京都八王子市台町 1-19-3

電話・FAX 042-626-9772